

## 「東山梨教育研究第52号」の発刊によせて

甲州市教育委員会委員長 矢崎秀明

この度、「東山梨教育研究第52号」の発刊にあたり、東山梨地域の教育に係ってこられた皆様に心より感謝と敬意を表します。

東山梨地区の教育研究の毎年度研究された集大成録として発刊し続けていることに、その歴史と重みが伝わってきます。

さて平成18年には、教育基本法が60年ぶりに大きく改定され、平成24年度から新学習要領が完全実施されました、さらに平成27年度より学習指導要領を全面改定する方針を文科省は固め、国際的に活躍できる人材の育成を目指し英語教育を充実させることを打ち出しました。

教育に係る環境は日々変化し教育者はもとより教育を受ける児童生徒はもっと大変ではないのでしょうか、今、日本の教育に一番必要なことは何でしょうか、文科省は日本の今までの教育方針が間違っているかの如く次から次へと改定を打ち出してきているように思えてなりません、私ども現場で働いている教職員を見ていますと私の教わった先生方すなわちこの研究史発刊当時と教育環境働く職場環境がすっかり変わり、はたして良くなったのか悪くなったのか、さあどうでしょうか？私は今のほうが悪いのではないかと思います。

今の日本の教育を良くするには、教育改革ではなく教職員待遇改革が必要だと思いません、教職員は就職の憧れの的になりそれにふさわしい人材すなわち教職員を育てることが大事だと思います。

さて、甲州市教育委員会では、平成23年10月より「確かな学力」向上プロジェクトをスタートさせ、①学級作り、集団作り ②授業づくり、授業改善 ③保護者、地域住民との連携の3部会を設け市内13小学校5中学校全校で活動しそれぞれ専門の大学教授等講師に招きすばらしい成果をあげています、この活動をみていますと一人ひとりの先生方が真剣に自ら取り組んでいることだと思います、教育というのは地道な活動の積み重ねだどつくづく感じております。

東山梨地区の少子化はこれからまだ当分このまま進むものと思われ、そんななかどのような教育環境がいいのか我々教育委員会として問われることとなりますが、私は最終的には、児童、生徒がどんな環境を望んでいるのかだと思います。

安全で安心して児童生徒をお任せでき信頼される学校づくりにこれからの一層微力ながら努力して参りたいと思いますので、現場の第一線で体を張って頑張っています教職員の皆さん方には体に十分留意され心身とも健康で明日を担う児童生徒のため自信と誇りを持って邁進されることを期待しております。

終わりに、東山梨教育と教育関係者のご尽力に敬意を表し、ますますの発展をご祈念申し上げます。